

目的 郷土料理はふるまの味として多くの人々に親しまれていすが、郷土料理に対して各年齢層の人とはどのようなイメージをもっているか、男女によりそれぞれのイメージは異なっているか、又それぞれの料理の栄養価とイメージの間に関連性があるかなどを知り、食文化の一つとして考えられる郷土料理をどのような形で食生活の中にとりいれたらよいかを検討する目的で本研究を行った。

方法 一般によく知られている郷土料理14種（あゆおし、ますおし、さばおし、しなりおし、うどんずす、皿うどん、わりこそば、鶏の水だし、こんにやくのさしみ、その他）につき食経験の有無、イメージを表現することは30項目（例 おいしい—まずい、好き—嫌い、都会的—田舎的など）に対する答えをアンケート調査によりしらべた。栄養価についてはそれぞれの献立材料より食品成分表により栄養価の計算を行った。

結果 よく知られていると思われる郷土料理でも殊に20年代の人には食経験のない者が多かった。年齢別により、又性別により郷土料理に対するイメージは異なっていた。各料理のイメージは複雑で栄養価との関連性は一概には論じられないと思われる。